

涼しく遊ぼう！北海道で夏休み

一人でも多く、一日でも長く

福島の子どもたち保養活動



原発ゼロ・市民エネルギー委員会

10 万年プロジェクト

生活クラブ生活協同組合 北海道

札幌市厚別区大谷地東1丁目4-15

TEL 011-887-8891 URL <http://www.s-coop.or.jp>

一人でも多くのお子さんの

一日でも長い保養を願って



生活クラブは、東京電力福島第一原発事故によって被災されたお子さんが一人でも多く、そして一日でも長く保養に参加してほしいと願っています。これまで夏休みや冬休みを利用した長期滞在プランやいつでも利用できる家族フリープラン、子どもだけのホームステイなどたくさんの御家族をお迎えしてきました。

福島では、ますます放射能への不安を口にすることができないと聞きますが、放射能を心配する不安な気持ちは消えることはありません。子どもたちが放射能のことを忘れ、自然の中で思いっきり遊ぶ時間を過ごすことが、免疫力をつけ、病気になりにくい身体をつくることにつながります。

これまで多くの皆さまにお力をいただき感謝申し上げますと共に今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



＜お母さんからのメッセージ＞

私の住む栃木県益子町は低線量汚染地域です。高線量汚染に苦しむ人々には申し訳ないくらいの気持ちで来させてもらいました。低線量とはいっても毎日毎日放射線は気になります。「この水は大丈夫？」「この食べ物は大丈夫？」原発事故後、安心して食べられるものを探して生活クラブを始めました。

私も子どもたちも外遊びが大好きです。土遊びをした後は入念に手洗いをし、砂塵が舞う風の強い日は外出を躊躇します。今回の保養では、やはり放射線を気にすることなく思い切り外で遊べたことがとてもとても嬉しかったです。

原発事故は、本当にあってはならないものです。人の住めない地域が出る。自然が汚され、何万年も元には戻らないなんて、あってはならないことです。天災は復興できます。人災は復興できないのです。人災によって生まれ故郷を奪われるなんて、人権侵害です。

私の故郷は栃木ではありません。縁があって栃木に住むことになって原発事故後何度も後悔しましたし、何度も、今も、移住できるならしたいと思います。

原発事故のことで、後ろ向きになってしまうことが本当に多くなってしまいましたが原発事故によって私は変わりました。放射能のことだけではなく、いろいろなことを勉強するようになりましたし、社会全体のことを自分のこととして考えられるようになりました。電気のスイッチ一つとっても、このエネルギーはどこからやってくるのか、沖縄の基地問題も自分のことだったらどうするか、と、心を寄せられるようになりました。そして、ここに今の自分が在ることに感謝しています。汚染地域に住む、様々な理由で住む場所を変えられない人々がたくさん保養に来られますように。私がこれからの未来、社会に向けてできることも考えて行動していきたいと思います。ありがとうございます。

北海道でのんびりゆったり



北海道で一番楽しかったのは磯遊びでカニをつったことです。また北海道に行けるとしたら 2〜3 週間は行きたいです。小 6



北海道に行くと決まった時すごくうれしかったです。福島では海水浴は原発の影響で入れないので久しぶりに海に入れてよかったです。小 5



初めて北海道に来た時はとても不安でしたが、優しく迎えてくれたことを覚えています。また会えて憶えてくれていて嬉しかったです。福島のことを考えてくれていたことが分かりました。高 2



生活クラブ生協の活動

＜食の安全にこだわります＞

生産から廃棄まですべての過程において、添加物や残留農薬をできる限り減らすなど、安全性にこだわります。また、徹底した放射能検査を実施します。健康や環境に与える影響についての情報を積極的に公開します。

＜健康な食べ方を大切にします＞

感謝とともに自然のいのちをきちんといただき、明日への元気につなげるために。食材の栄養や調理、食べ方についての知識や技術をみんなで共有し、食のアイデアを出しあいます。

＜国内自給率アップをめざします＞

原料や飼料の国産割合を高めることにより“生命の産業”である「農業」「漁業」「畜産」を振興します。消費者と生産者が一体となって、国内自給力の向上を図り、食の自立・健康増進・地域環境の保全に取り組みます。

＜遺伝子組み換え作物を認めません＞

企業による食糧独占を招き、また生物の多様性をも破壊する遺伝子組み換え作物を認めません。食品・飼料・添加物においても取り扱いません。やむを得ず使用する場合は情報を公開します。

＜有害物質ゼロをめざします＞

健康や環境をおびやかす有害物質の使用・放出を減らします。有害物質ゼロへ向けて、継続的に活動していきます。

＜原発のない社会をめざします＞

長期的な視点を持ち、エネルギーのムダ使いを積極的に減らします。消費者と生産者がチカラを合わせ、安全で持続可能なエネルギーの生産・流通に取り組みます。

10 万年プロジェクト

牛キとし生けるものへの思いやりや、人知を超える自然...への畏敬の念が失われつつある現代の象徴のひとつが原発だと思います。

そして、人は時として想定外の間違いを起こすこともあるという謙虚さを失った人たちが稼働し続けてきた原発が、案の定、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の地震と津波の影響で大事故を起こし、放射能を撒き散らしました。放射能の毒は人間には消すことのできない類のもので、その毒が消えるのに 10 万年はかかるといいます。私たち生活クラブ組合員は原発に反対してきました。が、50 基以上の原発稼働を阻止できなかったという自責の念や後世への申し訳なさから、特に子どもへの放射能の毒をほんの少しでも減らすことができるならと考え、2011 年から手探りで、福島原発の事故で放射能汚染された地域のお子さんたちとそこご家族を北海道へ招く保養活動に取り組んできました。

放射能の毒が地上から消える“10 万年”は続けなければならない活動。決して諦めないで、数えきれない世代をかけて延々と担っていかなければならない活動。生活クラブ北海道が 2011. 3. 11 以降、毎年手探りで続けてきた保養活動を今後本格的に腰を据えて取り組むという決意を込めて、改めて名づけた“10 万年プロジェクト”活動。また、これは福島の犠牲者のためという思いあがった活動ではありません。人としての当然な行為であり、私たちは決して“福島を忘れない”という福島への連帯表明でもあります。